

## 港区立いきいきプラザ等機能強化検討委員会による 「最終のまとめ」と今後の取組について

区は、昨年5月22日に、学識経験者や地域団体、福祉関係者等の外部委員で構成する港区立いきいきプラザ等機能強化検討委員会（以下「検討委員会」といいます。）を設置し、高齢者の生きがいづくりの支援、介護予防と健康づくりの支援並びに区民の相互交流及び自主的活動の促進を図るための機能強化について検討を重ね、本年1月22日開会の第5回検討委員会において、「最終のまとめ」（資料3-2）が取りまとめられました。

### 1 検討委員会の概要

#### (1) 委員構成

学識経験者2名、地域団体に属する者4名及び福祉関係者4名の計10名で構成しました。

#### (2) 開催経過

検討委員会は、全5回開催し、施設見学等を交えながら、検討内容のテーマに応じた方向性を議論し、第3回目に「中間のまとめ」を、第5回目に「最終のまとめ」（資料1-2）を取りまとめました。

### 2 各検討テーマにおける機能強化の方向性を踏まえた主な取組

「最終のまとめ」において検討テーマごとに示された機能強化の方向性を踏まえ、以下の取組を進めます。

#### (1) 検討テーマ1：設置目的の検証

- ア 設置目的に沿った事業計画書及び事業実績報告書の作成
- イ 高齢者ニーズに合った施設運営及び環境整備
- ウ 高齢者の拠点として、情報発信していく機能の充実 等

#### (2) 検討テーマ2：利用状況等の分析

- ア データ等に基づく効果的な施設運営
- イ 利用者状況の把握及び分析できる仕組みの構築
- ウ 施設の特徴や地域特性に応じたサービス提供の充実
- エ 利用者が施設を選択できるよう情報提供の充実 等

### (3) 検討テーマ3：敬老室、浴室の運用の考え方

- ア 個人利用によるコミュニティ形成の場となる運営
- イ 利用したい人が気持ちよく利用できる環境整備
- ウ 全施設で統一した基本的なルールの設定
- エ 浴室の柔軟な利用時間、曜日の設定
- オ 利用者の他事業への誘導 等

### (4) 検討テーマ4：世代間交流事業の拡充

- ア 多世代及び地域との交流の活性化を図り、コミュニティ機能を強化
- イ コーディネート機能を強化し、交流プログラムの内容の質的向上
- ウ 男性が参加しやすい事業の創出
- エ 地域活動団体との連携強化と誰もが参加しやすい地域活動の場の創出 等

### (5) 検討テーマ5：災害発生時等の役割

- ア 区民避難所であることの啓発
- イ 日常的な利用者への啓発
- ウ 近隣の区有施設等との連携を深め、効果的な災害対応体制の強化 等

### (6) 検討テーマ6：配置の考え方

- ア 長期的視点に立った施設配置の考え方の検討
- イ サービス内容とともに交通アクセス情報に係る広報の拡充
- ウ 近接する区有施設との機能連携やトレーニングマシンの設置の有無などの役割分担の調整
- エ 計画的な改修時における利用者への影響を最小限に留めるための取組 等

## 3 今後の取組

検討委員会が示す各機能強化の方向性について、区は、短期的に対応可能な事項や中長期的な視点での検討が必要な事項など、それぞれの内容等を精査し、必要に応じて指定管理者も交えながら、順次検討を進め、段階的に対応していきます。

## 4 今後のスケジュール（予定）

- |        |                                    |
|--------|------------------------------------|
| 令和8年4月 | 短期的課題等への対応を反映した管理運営の開始以降、段階的に機能を強化 |
| 7月     | 第1回 検討委員会（区への対応の進捗状況等について）         |
| 令和9年1月 | 第2回 検討委員会（令和9年度事業計画等について）          |

## 港区立いきいきプラザ等機能強化検討委員会

### 最終のまとめ

令和8年（2026年）3月

港区立いきいきプラザ等機能強化検討委員会

港区立いきいきプラザ等機能強化検討委員会  
最終のまとめ

目 次

1. 港区立いきいきプラザ等の機能強化検討について	1
（1）港区立いきいきプラザ等の機能強化検討の目的	1
（2）検討テーマ	1
（3）検討体制	2
（4）検討委員会の開催状況	2
2. いきいきプラザ等の概要	3
（1）いきいきプラザ等の施設概要	3
（2）いきいきプラザ等の利用状況	4
（3）個人利用施設（敬老室・浴室）の利用状況	5
（4）事業・プログラム別の利用状況	6
（5）第三者評価の状況・利用者満足度	7
（6）災害時における利用・対応状況	8
（7）施設アクセス・配置の利用面での現状	9
3. いきいきプラザ等の機能強化の考え方	10
（1）検討テーマ1：設置目的の検証	10
（2）検討テーマ2：利用状況等の分析	11
（3）検討テーマ3：敬老室、浴室の運用の考え方	12
（4）検討テーマ4：世代間交流事業の拡充	13
（5）検討テーマ5：災害発生時等の役割	14
（6）検討テーマ6：配置の考え方	15

# 1. 港区立いきいきプラザ等の機能強化検討について

## (1) 港区立いきいきプラザ等の機能強化検討の目的

区の総人口は、港区人口将来予測<令和7(2025)年度改定版>によると令和32(2050)年には、令和7(2025)年比約138.9%の約37万2千人まで増加すると推計され、特に老年人口は対令和7(2025)年比で約1.9倍となる見込みであることから、多様化する高齢者ニーズに対応するための環境整備が不可欠です。

港区立いきいきプラザ、港区立児童高齢者交流プラザ及び港区立台場高齢者在宅サービスセンター内のふれあい団らん室(以下「いきいきプラザ等」といいます。)は、こうした高齢者ニーズに直結する施設で、地域の拠点として、更なる機能強化に向けた検討が必要です。このため、区は、学識経験者や地域団体、福祉関係者等の外部委員で構成する港区立いきいきプラザ等機能強化検討委員会(以下「検討委員会」といいます。)を設置し、高齢者の生きがいづくりの支援、介護予防と健康づくりの支援並びに区民の相互交流及び自主的活動の促進を図るための機能強化について検討を進めました。

## (2) 検討テーマ

検討委員会では、いきいきプラザ等の機能強化のため、各施設の利用者懇談会や意見箱等の利用者の声に加え、港区議会での質疑内容や区の広聴部門に届く意見等の区に寄せられていたキーワード等を受け止めるとともに、高齢者を取り巻く社会環境の変化などを踏まえ、6つの検討テーマを設定しました。

このため、いきいきプラザ等の利用者像などを各施設の利用状況や利用者意見の分析、各事業の検証などから、機能強化につながる取組を検討しました。

### 検討テーマ1：設置目的の検証

生きがい、介護予防、コミュニティの事業の実施状況及び成果等の検証を進める仕組みを構築し、施設の設置目的に沿った事業等の機能強化

### 検討テーマ2：利用状況等の分析

利用実績等の分析を進め、利用者層や利用状況を把握し、的確な周知につなげ、施設利用や事業運営に反映させていく機能の強化

### 検討テーマ3：敬老室、浴室の運用の考え方

敬老室及び浴室は、個人の利用であるため、公共の場として、気持ちよく使ってもらえる運用の考え方を一定程度整理し、より多くの人に利用いただく機能の強化

### 検討テーマ4：世代間交流事業の拡充

いきいきプラザ等を地域の拠点として、世代間交流事業や健康をキーワードとした健康寿命の延伸等に係る取組(健康増進事業)の強化

### 検討テーマ5：災害発生時等の役割

いきいきプラザ等は、区民避難所であることを踏まえ、利用者や地域に向けた災害発生時の役割や対応に係る啓発の機能強化

## 検討テーマ6：施設配置の考え方

既存施設の配置状況について、交通アクセスや起伏、他の区有施設との調和を含めた17施設の現状を把握した上で、最適な施設配置の考え方を整理

### (3) 検討体制

高齢者人口増を始め、多様化する高齢者ニーズへの対応として、いきいきプラザ等の機能をこれまで以上に発揮し、区民に信頼され、喜ばれる地域拠点に向け、機能強化を検討するための委員会を設置しました。

<委員名簿／令和8年1月22日時点> ◎委員長 ○副委員長

学識経験者	◎ 野呂千鶴子	国際医療福祉大学大学院 教授
	○ 鈴木宏幸	東京都健康長寿医療センター研究所 研究副部長
地域団体	太田則義	チャレンジコミュニティ・クラブ 企画部会長
	菅家厚子	介護予防リーダー
	杉山厚子	港区老人クラブ連合会 会長
	千秋正子	公益社団法人港区シルバー人材センター 副会長
福祉関係者	加藤三奈	社会福祉法人港区社会福祉協議会 地域福祉係長
	田中泉	港区民生委員・児童委員協議会 会長
	栃堀賀江	港区立介護予防総合センター 副センター長
	野口真美	芝浦港南地区高齢者相談センター 職員

### (4) 検討委員会の開催状況

検討委員会は、全5回開催しました。

第4回の検討委員会では、中間のまとめとして、検討テーマ1から検討テーマ5までについて今後の基本的な取組の方向性を整理しました。

なお、検討テーマ6については、第4回の検討委員会で集中的に議論を深め、最終のまとめに向け、検討を進めました。

<検討委員会の開催状況>

・第1回検討委員会	令和7年	5月22日(木)	会場：区役所9階会議室
・第2回検討委員会	令和7年	7月24日(木)	会場：神明いきいきプラザ
・第3回検討委員会	令和7年	9月4日(木)	会場：ありすいきいきプラザ
・第4回検討委員会	令和7年	11月17日(月)	会場：青山いきいきプラザ
・第5回検討委員会	令和8年	1月22日(木)	会場：神応区民協働スペース

## 2. いきいきプラザ等の概要

### (1) いきいきプラザ等の施設概要

いきいきプラザ等は、高齢者の生きがいがづくり並びに介護予防及び健康づくりを支援するとともに、区民の相互交流及び自主的活動の促進を図り、もって区民福祉の増進に寄与することを目的としています。

事業内容は、高齢者の生きがいがづくりの支援に関すること、介護予防及び健康づくりの支援に関すること、区民の相互交流及び自主的活動の支援に関すること、高齢者の利用に供するため敬老室等を無料で公開すること、プラザ施設の利用に関することとしています。

<施設概要>

※令和7(2025)年度港区行政資料集より抜粋

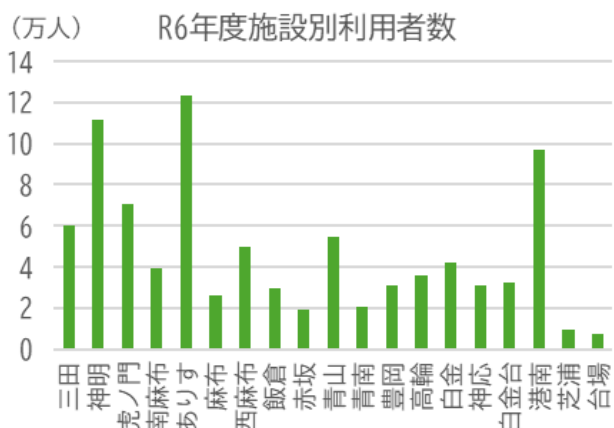
		竣工年等	延べ床面積(m <sup>2</sup> )	機能								その他
				集会室	講習室	ホール	スタジオ	敬老室	浴室	トレーニングルーム	喫茶コーナー	
芝	三田	H7(1995)取得	1,527.65	3	1			1	2		1	
	神明	H24(2012)竣工	6,085.36	4			2	1	2	1	1	展示ギャラリー 体育館、リハーサル室
	虎ノ門	H19(2007)取得	1,261.74					1	1	1	1	多目的室
麻布	南麻布	H3(1991)竣工	2,051.85	3				1	2			
	ありす	H26(2014)竣工	2,138.65	3	1			1	2		1	多目的室
	麻布	R6(2024)竣工	1,047.92		1			1	1			
	西麻布	H26(2014)竣工	2,116.91	3	2			1	2			多目的室
	飯倉	H12(2000)竣工	646.92	3				1	2			
赤坂	赤坂	S48(1973)竣工	848.70	2				1	2			
	青山	S57(1982)竣工	2,471.33	2	4			1	2			体育館
	青南	S58(1983)竣工	654.98	4				1	2		1	
高輪	豊岡	S55(1980)竣工	1,021.24	2				1	2			
	高輪	H22(2010)竣工	565.54	2				1	1		1	
	白金	H4(1992)竣工	1,098.47	4				1	2			
	神応	S42(1967)竣工	1,545.86	3				1				体育館
	白金台	H2(1990)竣工	2,982.52	5		1		1	2			
港南	港南	H13(2001)竣工	1,254.05					2	2	1	1	多目的室 アクアルーム
	芝浦	H19(2007)竣工	1,928.30									
台場	高齢者在宅サービスセンター(ふれあい囲らん室)	H8(1996)竣工	1,466.92						1			

## (2) いきいきプラザ等の利用状況

### ①施設別・地区別利用者数

令和6年度の施設別利用者数は、最も多いありすで12万人、最も少ない台場で1万人となっております。

地区別では、多い順に麻布地区、芝地区、高輪地区、芝浦港南地区、赤坂地区となっております。



令和6年度施設別利用者数のデータにより、19施設の利用者数の合計と港区の60歳以上人口の推移を比較すると、施設利用者の大部分を高齢者が占めていることが確認できます。

なお、施設利用者数は、コロナ禍で落ち込んだ利用者数は回復傾向にあるものの、全ての地区でコロナ禍前の水準に達していません。



### ②現在の利用実績の把握状況

利用実績は延べ人数での把握であり、敬老室、浴室、喫茶コーナー、個人利用だけでなく、いきいきプラザ主催講座や貸室利用の人数も全て含まれるなど、取組・サービス毎の利用者数は把握できていません。

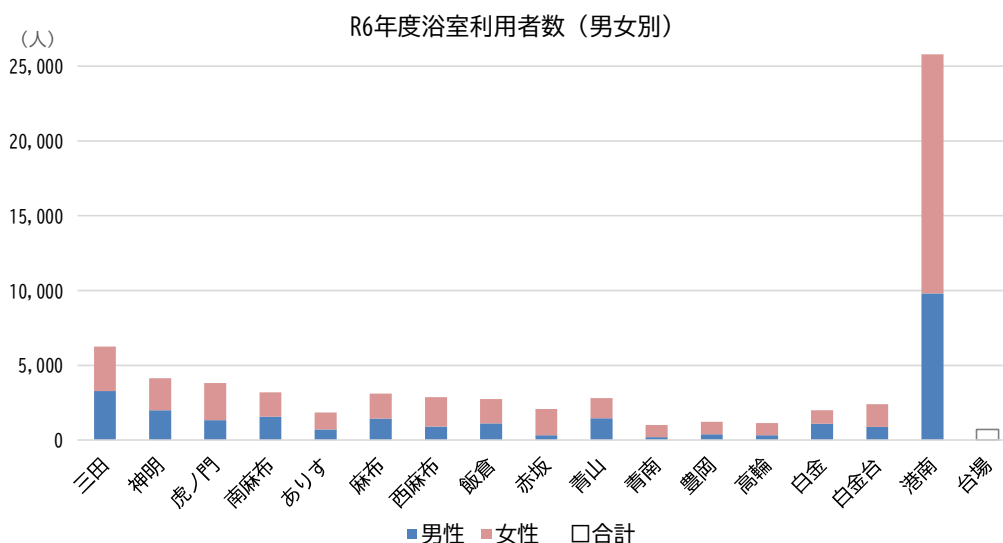
利用者の属性(例:居住地区、年齢層)を把握するためには、利用状況を把握するための入館管理システム等の導入が必要になります。

### (3) 個人利用施設（敬老室・浴室）の利用状況

#### ①設置状況

敬老室と浴室の設置状況について、敬老室は、17 施設/19 施設中、浴室：17 施設/19 施設中となっています。

令和6年度の17施設における浴室利用者数の合計は、令和4年度比5.3%増加しています。施設別の利用者数は、週7日営業しており、1日当たりの営業時間も長い港南が突出して多くなっています。

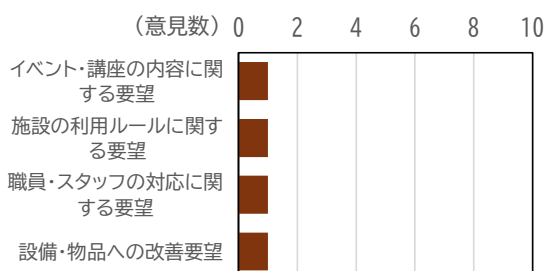


#### ②敬老室・浴室に関する利用者の声

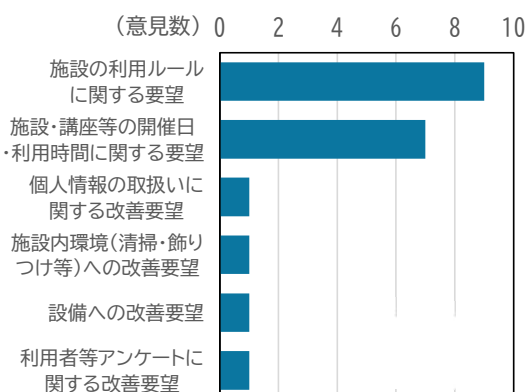
区民の意見（利用者懇談会）では、敬老室・浴室について次のような意見が見られました。敬老室に関する主な意見では、サービス面への要望は少ないものの、施設面での改善要望として、敬老室に備え付けている物品（囲碁等）の充実に対する要望が見られます。

浴室に関する主な意見は、利用ルールに関することや利用できる時間、曜日への要望が多く見られます。

##### <敬老室に関する主な意見>



##### <浴室に関する主な意見>

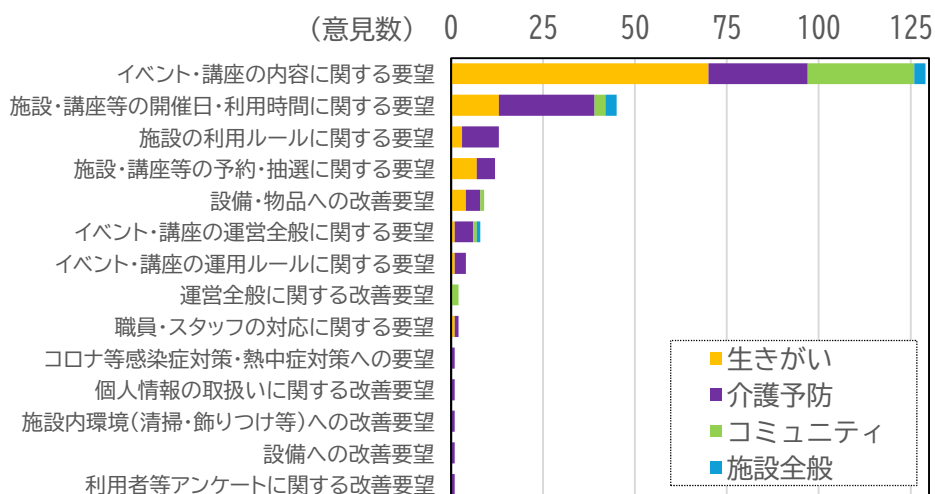


## (4) 事業・プログラム別の利用状況

### ①各サービスへのニーズ傾向

各サービスに関するニーズ（懇談会等）の分析では、イベント・講座の内容については、「生きがい」に関する要望が多くなっています。施設・講座等の開催日・利用時間に関する要望については、「介護予防」に関する取組が多くなっています。

<各サービスに関するニーズ（懇談会等）>



### ②世代間交流事業や健康増進事業の実施状況及び利用状況

世代間交流や健康増進事業に関する取組は、各施設での実施数が少ない傾向にあるため、要望については、少ない状況です。

各施設での世代間交流事業、健康増進事業としては、主に次のような取組を実施しています。

#### <世代間交流事業>

- (主な事業)
- ・ストラックアウト交流会（豊岡）
  - ・かるた交流会（豊岡）
  - ・国際交流イベント（虎ノ門）

#### <健康増進事業>

- (主な事業)
- ・みんなといきいき体操
  - ・腰痛予防改善教室
  - ・スクエアステップ

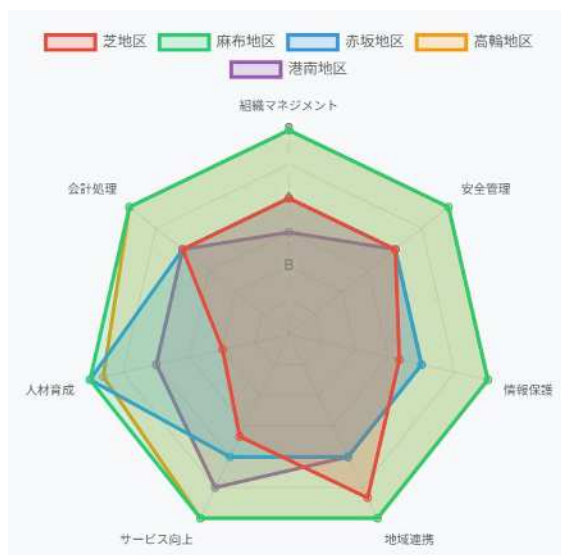


## (5) 第三者評価の状況・利用者満足度

### ①第三者評価の状況

麻布地区では、総体として高く評価されていますが、他地区では、評価のバランスが悪く、改善が求められています。

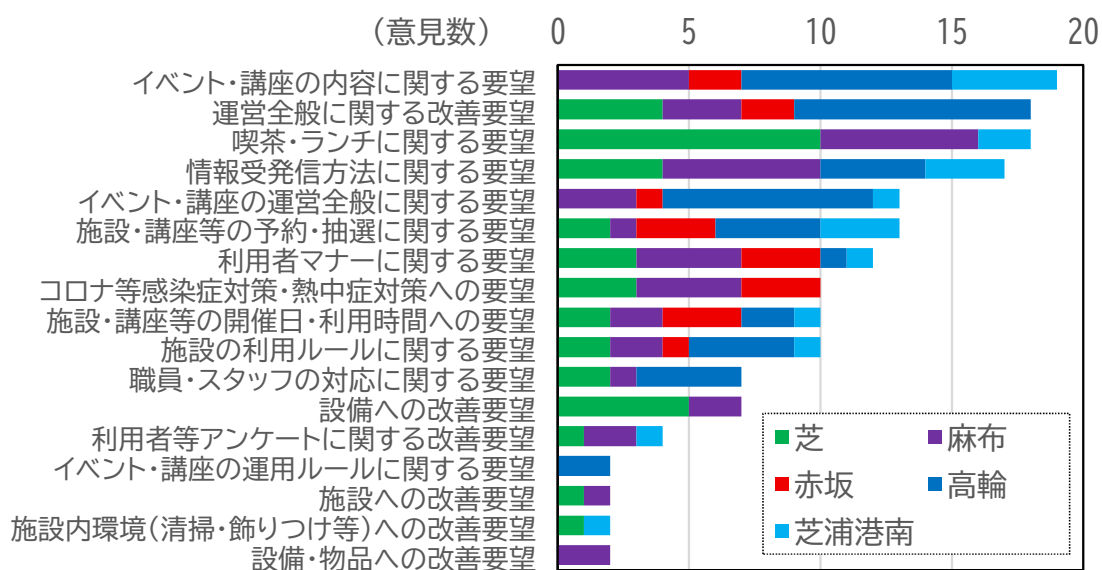
全 17 施設の平均満足度は 92.7% となっており、青南 98% を最高として全施設が 90% 以上となっています。利用者との密接なコミュニケーションと継続的なサービスの向上により、利用者の満足度は概ね高くなっています。



### ②運営に関する利用者意見等

いきいきプラザ等では、利用者懇談会を開催し、利用者からの意見等を聴取しています。運営については、「イベント・講座の内容に関する意見等」が最も多くなっています。そのほか「喫茶・ランチに関する意見等」「情報受発信の方法に関する意見等」も多く寄せられています。

<いきいきプラザ利用者懇談会での運営に関する意見等>



## (6) 災害時における利用・対応状況

### ①区民避難所としての指定状況

区では、区民避難所（地域防災拠点）として、区立の小・中学校だけでなく、いきいきプラザや区民センター、子ども中高生プラザなど、57か所の区有施設を指定しています。

全いきいきプラザを区民避難所（地域防災拠点）、台場高齢者在宅サービスセンターを福祉避難所に指定しています。

### ②災害対応の取組状況

区民避難所（地域防災拠点）に指定している施設の指定管理者とは、区と災害時協定を締結し、実施する業務の役割分担を定めています。

指定管理者は、災害発生時、いきいきプラザ等の安全確認や利用者の安全確保に加え、区の災対地区本部による指揮命令のもと、避難所運営の支援を担います。

また、休日、夜間等に大きな災害が発生した場合において、指定管理者は、いきいきプラザ等への参集義務を負います。

そのほかにも、事業計画書には、緊急時・災害時の対応として、以下の点を管理運営計画に位置づけています。

- ・緊急時対応マニュアルの整備と訓練を定期的実施し、職員の対応能力向上を図る。
- ・夜間・休日等の緊急対応体制を整備し、警備会社や関係部署と連携して迅速な対応を行う。
- ・災害時には、区や消防署、警察署などの関係機関と連携し、人命の確保と被害の最小化に努める。

### ③災害時利用に関する区民の声

区民からは以下の要望・意見が出されています。

#### ■施設に関する意見

- ・避難所として使うのに、洋室だと不衛生ではないか。
- ・館内の表示にわかりにくい箇所がある。避難経路についても改めて教えて欲しい。
- ・神応いきいきプラザの体育館への動線が非効率的（エレベーターでの昇降）。

#### ■運営に関する意見

- ・避難訓練はその時間にいる人は必ず参加するのか。強制参加が良いのではないか。

## (7) 施設アクセス・配置の利用面での現状

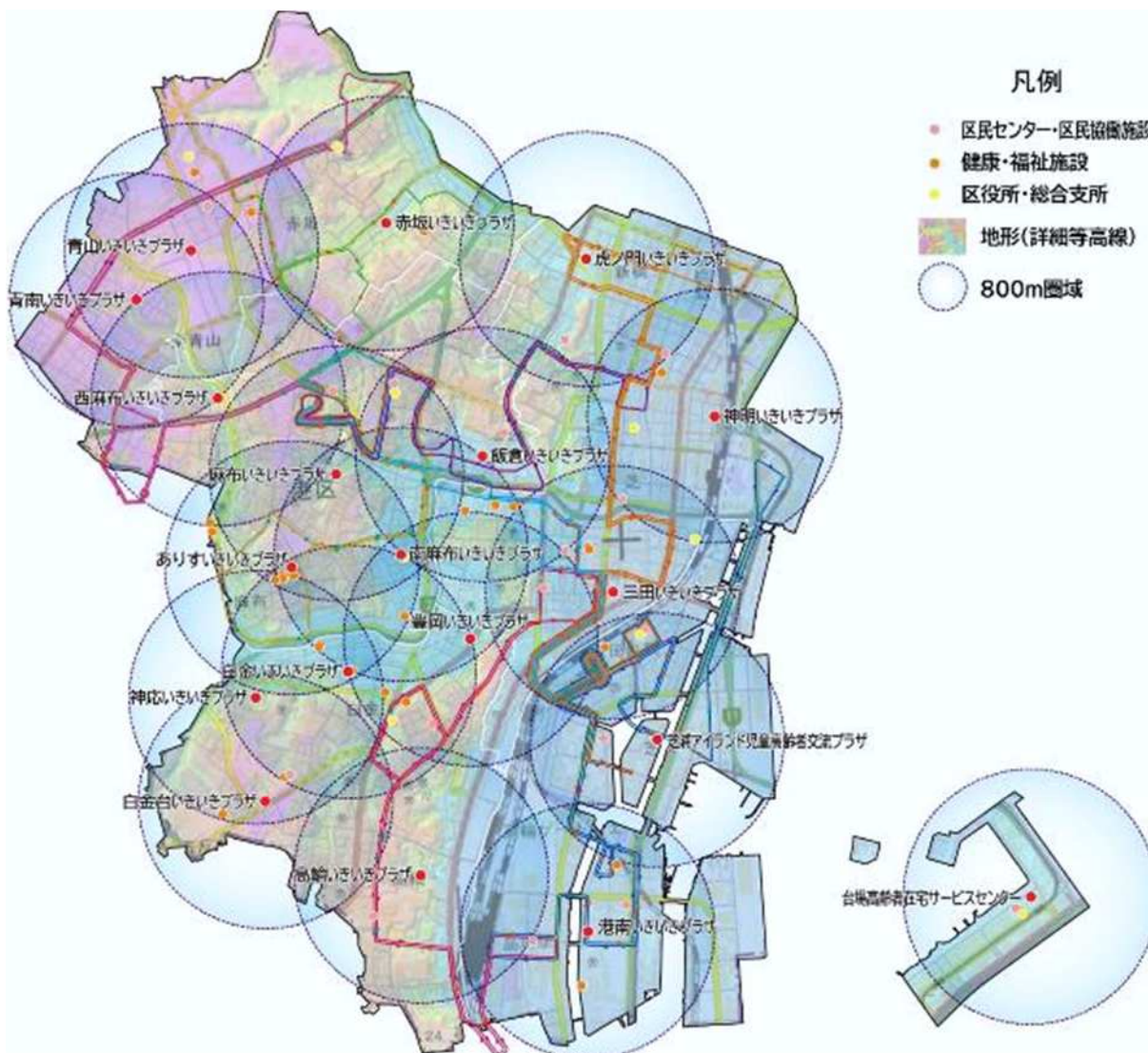
### ①利用圏域

高齢者が徒歩 15 分程度で歩くことができるとされている 800m 圏内で、いきいきプラザ等の圏域を描くと概ね区全域をカバーしている現状です。

### ②配置と利用の関係

港区の平面図から見ると地域のバランスを踏まえ、既存施設を効果的に活用できるよう配置できており、港区の地域保健福祉政策の重要な基盤施設として位置づけています。

#### <施設分布状況>



### 3. いきいきプラザ等の機能強化の考え方

いきいきプラザ等の現状と課題及び検討委員会での協議結果を踏まえ、次のとおり、機能強化の考え方を整理します。

#### (1) 検討テーマ1：設置目的の検証

##### ■現状と課題

- いきいきプラザ等の設置目的である3本柱「生きがい、介護予防・健康づくり、コミュニティ」に関する事業について、各柱を視点とした実績報告がなされていないため、各施設でバランス良く実施されているのかなど、把握が困難な状況にあります。
- 介護予防事業について、施設間でクオリティに差がないようにカリキュラムの統一を進めるべきであり、事業効果の検証も必要です。
- 指定管理者の評価について、地区ごとに第三者評価の実施機関が異なるため、港区全域での総体的評価、地区間の相対評価により、港区全体として各サービスが一定水準で行われているのかがわかりにくい状況です。
- 男性の社会参加促進、熱中症対策（給水器・扇風機設置）、デジタルデバイド対策（パソコン設置と使用支援）等の一層の環境整備が求められています。

##### ■方向性

いきいきプラザ等の設置目的である「高齢者の生きがいづくり」、「介護予防及び健康づくりの支援」、「区民の相互交流及び自主的活動の促進」を実現するため、3本柱を事業計画の段階から項目立ての統一を図るとともに、事業実施状況を統一かつ適切に把握・評価し、継続的な改善につなげる仕組みを構築する必要があります。

いきいきプラザ等が地域における社会参加の拠点として機能することで、介護予防や健康づくりの取組を補完する役割を担うことが期待されます。

また、施設間でのサービス格差を解消し、区内全体で一定程度のサービスを提供できる体制の構築を目指したうえで、各いきいきプラザ等の施設特性を効果的に生かしつつ、高齢者特有のニーズに対応した環境整備を推進するなど、高齢者が安心して利用できる施設運営につなげていくことが必要です。

コロナ禍前の食の取組は、運動事業への参加が難しい高齢者にとって、外出する良い機会であり、世代間交流の発展にも期待できることから、会食の利点を生かした事業展開が必要です。

高齢者の重要な活動拠点として、文化的な生活にも貢献する施設運営を目指し、デジタル活用支援員の配置によるスマートフォン等の操作への支援や熱中症対策の環境整備など、高齢者の安全・安心を支える施設運営を継続して進めていく必要があります。

## (2) 検討テーマ2：利用状況等の分析

### ■現状と課題

- コロナ禍による施設の利用制限等によって落ち込んだ利用者数は回復傾向にあるものの、全ての地区で、利用者数などの実績がコロナ禍前の水準に戻っていません。
- 利用実績は延べ人数の把握のみであり、取組やサービスごとの利用者数は把握できておらず、利用者の属性（居住地区、年齢層）も把握できていません。
- いきいきプラザ等で実施している事業等を知らない区民が多いと考えられます。新規利用者が少なく、各施設の特色や利用方法も分かりにくいことから、パンフレット等の情報発信が不足しているのではないかと考えられます。
- 利用者アンケートの設問が、施設や地区によって異なっており、統一的なデータの収集・分析体制が整備されていません。
- 講座や教室等の定員不足、改修時の代替スペース確保等の運営上の課題があります。

### ■方向性

コロナ禍による利用者数減の回復を図るとともに、施設の利用状況や利用者ニーズを詳細に把握し、データに基づく効果的な施設運営が求められます。現在の延べ人数による利用者数の把握に加え、利用者属性や利用目的、満足度等を詳細に分析できる仕組みの構築が必要です。

今後、入館管理システム等の導入により蓄積される利用データを活用し、利用者層や参加行動の傾向を分析することで、施設の特徴や地域特性に応じた事業設計や参加促進の取組につなげていくことが期待されます。また、将来的にはAI等を活用したデータ分析により、利用ニーズの把握や効果的な事業運営への活用も検討していくことが望まれます。

講座や教室の実施に当たっては、継続利用者が多く、新規利用者が参加しづらい状況への対応や夕刻から夜間にかけての開催などの工夫とともに、事業の効果測定や各館共通の評価体系の構築も必要です。

利用者アンケートの実施に当たっては、統一すべき設問を整理し、継続利用者のみならず不満層の意見も収集できる仕組みを構築するなど、多様化とともにニーズの変化にも柔軟に対応しつつ、データに基づく施設運営の推進につながる検討が必要です。

また、従来の広報紙や区HPに加え、デジタル回覧板やSNS等の活用、ケアマネジャーや訪問看護師への情報提供など、多角的なアプローチにより施設の認知度向上と新規利用者の掘り起こしを図るなど、いきいきプラザ等の認知度向上と適切な施設選択を支援できるよう検討が必要です。

### (3) 検討テーマ3：敬老室、浴室の運用の考え方

#### ■現状と課題

- 敬老室について、麻雀セットの購入、麻雀サロンの開催など、利用に関連して多くの要望があります。
- 浴室の利用について、一部施設では常連の利用者が多く新規利用者が入りにくい雰囲気や、一番風呂を利用したい人がいるなど、利用者間での暗黙のルールが存在するほか、一人で浴室を独占する利用者もあり、体調面なども含め安全管理上の懸念が生じています。
- 浴室の利用者からは、利用マナーの指導や利用時間延長等の要望が多くあり、週3日・同一曜日の開設について、曜日の分散や開設日の増加を求める声も寄せられています。
- 浴室の延べ利用者数は多いものの、実際の利用者数(実利用人数)は確認できておらず、常連ではない人が行きにくさを感じているという声も出ています。高齢化による排泄トラブルも新規利用者が入りたがらない要因となっており、職員の見回り体制の強化などが必要です。
- 浴室のみの利用者を他の事業等の参加につなげる取組を考える必要があります。

#### ■方向性

敬老室及び浴室は、個人利用が中心となるため、公共施設として公平性と快適性の確保とともに、コミュニティの形成につながる場となるよう、新聞や雑誌等の配架などの情報提供、発信機能の充実などの環境整備が必要です。

現在、新規利用者が利用しづらいとの意見があり、こうした声を減らす取組の推進とともに、設置目的をわかりやすく明示することで、継続利用者も含め利用する区民が気持ちよく利用できる環境の整備が求められます。浴室における体洗い、入浴時間、利用マナー等について、統一的なルールのもと、各施設での掲示や利用ガイドの配布により、すべての利用者が快適に利用できるよう、環境づくりの検討が必要です。敬老室及び浴室の写真や利用可能時間、予約方法、設備内容等を記載した利用ガイドを作成し、区の広報紙・ホームページに掲載するほか、口コミやSNSを活用し、区民が利用したい施設をより選択しやすくなるよう情報提供することも必要です。

また、利用者の多様なニーズに応えるため、地域特性や施設設備の制約を踏まえ、統一した基本的な運用ルールの検討を進め、それぞれの施設の運営体制を強化していく必要があります。

特に、浴室については、見回り体制などの安全性を確保した上で、利用時間や時間帯、曜日、開設日等の柔軟なサービス提供を検討するとともに、利用者を他の事業へ誘導する仕組みの構築により、いきいきプラザ等の活性化と利用者の社会参加を促進していく必要があります。

## (4) 検討テーマ4：世代間交流事業の拡充

### ■現状と課題

- 世代間交流事業の実施は、複合館と単独館では実施状況の差が大きいため、更なる工夫が必要です。
- いきいきプラザ等は、高齢者が通う場所という認識が強く、60代からはまだ早いと感じられており、幅広い年齢層による利用促進が求められます。また、特に男性は家にこもりがちになる傾向があり、男性も参加したいと思える事業を増やす必要があります。
- 介護予防事業について、施設によって質に差が生じている場合があります。また、元氣塾は実施規模が小さく実施していない施設もあり、実施している施設の参加率も50%未満と低調です。
- 健康長寿アプリ「チャレンジみなど」の普及を加速させ、地域活動に参加しない高齢者をどう引き出すか、個別のアプローチや声かけなどの工夫が必要です。
- 社会福祉協議会が行っている車椅子の貸出し事業（車椅子ステーション）について、いきいきプラザ等の施設規模などにより協力状況に差が生じています。

### ■方向性

いきいきプラザ等は、高齢者施設としてのイメージが強いため、60代からの早期利用促進と世代間交流の活性化を通じて、地域コミュニティの拠点としての機能を更に強化していく必要があります。複合館の特性を活かした世代間交流の推進とともに、単独館においても近隣施設との連携により交流機会を創出し、世代間交流事業の目的を明確にして、地域全体での支え合いの仕組みを構築する必要があり、区の施策として位置づけ、専門的なコーディネート機能の強化も重要です。

世代間交流の取組は、いきいきプラザ等が仲介役としての役割を担い、交流イベントにとどまらず高齢者が地域の中で役割を持って関与する活動として展開することにより、交流の継続性や地域への貢献意識の向上とともに、高齢者と子ども等が「人」としてつながる関係性の構築に期待できます。例えば、読み聞かせ活動や学習支援など、高齢者が地域社会に貢献する形の取組は、世代間交流と社会参加を同時に促進させる可能性があります。

また、各施設間での成功事例の共有や見える化を図り、行政の縦割りを解消する明確な窓口機能を整備することやeスポーツなどを取り入れた世代間交流事業の充実を図り、質的向上と新たな利用者層の獲得を推進するとともに、男性の参加促進のため、図書館との連携による学習プログラムや「男の料理教室」等の拡充にも取り組む必要があります。

さらに、港区社会福祉協議会等の関係団体のほか、民生委員・児童委員、老人クラブなどの地域活動団体や高齢者相談センターとの連携を深め、保育園や小学校等の教育機関への積極的な働きかけ、地域で孤立しがちな高齢者へのアウトリーチ機能を強化し、健康長寿アプリ「チャレンジみなど」の普及なども推進することによって、誰もが参加しやすい地域活動の場としての役割を果たしていくことが必要です。

## (5) 検討テーマ5：災害発生時等の役割

### ■現状と課題

- いきいきプラザ等が災害時の拠点として活用されることについて、区民への周知や役割の啓発が十分に行き届いていないと考えられます。
- 区民避難所（地域防災拠点）として有効にいきいきプラザ等が機能するよう、周辺の区有施設との機能分担についての検討が必要です。
- いきいきプラザ等で実施する防災や災害時等の対応に関する区民向けの啓発は、一部の施設では実施されているものの、更なる拡充が必要です。

### ■方向性

いきいきプラザ等の機能の更なる啓発の一つとして、区民避難所（地域防災拠点）であることを区民・利用者に一層周知することが重要です。さらに、検討テーマ4（世代間交流事業の拡充）の取組の推進は、平時からの交流が有事の助け合いにつながる視点でも有効であり、地域や世代間での交流を一層推進することは、災害時における自助、共助への貢献に大きく期待できます。

災害時に実効性のある避難所機能を発揮できるよう、日常的に利用者への啓発活動や実践的な避難訓練を実施するなど、災害対応力の向上に取り組む必要があります。

また、各施設の収容力や設備条件を踏まえた役割分担を明確化し、近隣の他区有施設との連携を深め、地域全体でより効果的な災害対応体制を強化することが求められます。

さらに、高齢者特有の避難支援ニーズなどを踏まえ、避難所の運営環境の向上に努めていく必要があります。

## (6) 検討テーマ6：配置の考え方

### ■現状と課題

#### <施設配置関連>

- 区では、徒歩 15 分の「800m 圏域」を目安に施設を整備してきましたが、徒歩 10 分の 500m 圏域でみると空白地域が生じています。また、六本木など、一部の地域ではいきいきプラザが不足しているとの意見も出ています。
- 施設の老朽化が進んでいる建物は、設備や機能を有効に活用できるよう検討が必要です。
- 民間施設の借上げなどにより、活用することも検討すべき課題です。
- 高齢者相談センターを中学校区といった生活圏で配置する考え方もあり、いきいきプラザ等に適した考え方となるよう見直す余地があります。

#### <アクセス関連>

- 坂が多い地域等、交通アクセスの改善を求める声が寄せられています。
- 車椅子用の駐車場が少ない施設があり、利用しづらいとの声が出ています。
- 敷地の広いタワーマンション等の居住者は、施設までの移動に時間がかかり、遠いと感じる場合があります。

#### <施設設備関連>

- 建物の老朽化や安全上の問題（エレベーター工事不可など）が生じています。
- 高輪いきいきプラザは狭く、高齢者数が多い高輪地区のニーズに応えきれていないとの声があります。

### ■方向性

港区の地形特性や人口分布の変化、施設の老朽化状況等を総合的に勘案し、長期的視点に立った配置の考え方を検討する必要があります。

坂道の多い地域特性や公共交通網の整備状況を踏まえ、これまでの 800m 圏域にとらわれず、高齢者の利便性を踏まえた考え方や他施設の利用の可能性などの整理が必要です。

各施設の立地条件や規模特性を活かした戦略により、区民が利用目的に応じて適切に施設を選択できるよう、サービス内容とともに交通アクセス情報の広報の拡充も必要です。

なお、効率的なサービス提供を実現するため、近接する区有施設との機能連携やトレーニングマシンの設置の有無など役割分担を進め、重複する機能を避けながら各地域に必要なサービスを確保できるよう調整が必要です。

また、施設の計画的な改修時には、ユニバーサルデザインの観点への配慮をはじめ、工事期間中の機能を可能な限り維持できるよう、近隣の他施設における事業数や定員等の増加など、地域との連携を含め利用者への影響を最小限に留めるための取組も求められます。

施設の新設に当たっては、土地確保の課題もありハードルは高く、民間ビル等の借上げも一つの手法と考えられます。今後、地区ごとの健康度のデータを考慮した配置の考え方の検討に加え、AI を活用し、介護予防や健康づくりの取組状況などの分析にも期待します。